



見つめる「先」

「みんな、静かにして」、「し～だよ。気づかれないように」そう言って嬉しそうに見つめる子どもたちの視線の先には、仲よく同じベッドで寝ているよつばちゃんとしゅんくんの姿がありました。よつばちゃんをお母さんにしてあげたいと願い、しゅんくんを迎え入れた日から、2頭の仲が深まっていくことを大切に見つめてきた子どもたち。そんな子どもたちは、待ち望んでいた2頭の交尾があった後も、家族になっていく2頭が本当にお互いのことを受け入れ、もっともっと居心地よく過ごしていけるようにどうしたらいいのかと、自分たちにできる関わり方を考えてきました。寒い冬も元気に過ごして欲しいと、ベッドの藁の敷き替えをしたこの日、2頭はそのベッドで仲良く横になっていました。近い距離で目を閉じ、安心したような表情で眠っている2頭の姿を目にした子どもたちは、興奮する気持ちを押さえるようにしながら、その様子を眺めていたように思います。自分たちが見ていることを感じ取られないように、小声で、「好きから、大好きになったね」、「ちゃんとお互いに100%の好きになったね」と語り合ったり、2頭だけのゆったりとした時間が続くように、窓から頭だけ出して見たりしながら、眠る様子を見つめる子どもたちの後ろ姿が印象的でした。



音楽会 思いを歌う



音楽会では、自分たちで作詞をした曲に、音楽の先生にメロディーをつけてもらい、よつばちゃんとしゅんくんの歌を歌いました。交尾のことをうたった歌の中に、「交尾をした合図だね うれしいな 本当にありがとう うれしいな 本当にありがとう」という歌詞が出てきます。子どもたちが作ったこの歌詞を初めて目にしたとき、教師には、赤ちゃんが生まれてくるから、ありがとうと思ったのかな？赤ちゃんが生まれてきてほしい気持ちは分かるけれど、少し自分たちにとって都合のいい歌になってはいないかという思いが湧いてきました。そこで、この歌作りを担当した子に、『本当にありがとう』って、どんな思いで歌詞をつけたの？と聞いてみました。すると、「だってさ、交尾をしたってことは、よつばもしゅんも、お互いのことを気に入ったってことでしょ。大事なよつばをしゅんが気に入ってくれて、よつばのためって思いながら、自分たちで決めた結婚相手のしゅんをよつばも好きになってくれた。あと、二人が気もちよく過ごせるように、自分たちも頑張ってきたし。本当にいいのかなって思う時もあったけど、ちゃんとお互いを大事にしてくれて、元気にしていることって、嬉しいもあるけど、ありがとうって思うじゃん」と返事が返ってきました。私の中では、交尾の歌と聞いた時に、交尾したこと自体を嬉しく思うという表現で止まっていたのですが、子どもたちの中では、交尾をした後に仲よく寄り添う2頭の姿が『本当にありがとう』という言葉で綴られているんだなと感じさせられた瞬間でした。そして、これまで過ごしてきた日々や、夫婦となった2頭が毎日元気にそこにいることが、嬉しさを乗り越えて有難さになっているのだとも思いました。同じ言葉でも、その言葉が含んでいる背景を聞くことって、改めて大切にしたいなと感じました。

よつばも、しゅんも、ぼくたちも大事な家だから

今年度の登校日数も残すところわずかとなってきた3月。子どもたちは、進級による教室移動に伴い、教室横の学級園に作ってあるよつばちゃんとしゅんくんが住んでいる家（小屋）を解体することに決めました。まずは、解体して新しい家がができるまでの間、2頭が安全に過ごせるように、仮小屋への引っ越しです。しかし、2頭が一緒に入れるだけの大きさが仮小屋にはなく、別々の場所へ引っ越しをせざるを得ませんでした。離れて小屋に入った瞬間、大きな声を出して鳴き続けるしゅんくん。仮小屋から脱走して、住んでいた家に走って戻ってきたよつばちゃん。子どもたちは、「寂しいのかな。不安なのかな。二人で仲よく過ごしていた家がお気に入りだったんだね」、「よつばも、しゅんも、ぼくたちも大事な家だから、もったいないけど、心を込めて片づけたい」と語っていました。解体前に、みんなで最後の記念撮影をしました。始まりと終わりがあって、また新たな気持ちで歩みだし始めることができる。年度の終わりを迎えるにあたり、『始末をつける』ことを子どもたちと大事にしながら、過ごしていきたいと思いました。

